

千葉県税理士会佐原支部長賞

私たちが幸せな暮らしをするために

神崎町立神崎中学校三年

大野 由愛

私は「税金」ということについて、考えたこともなかったし、税金は無くてもいいと思っていました。

ある日学校で、税金を学ぶ授業がありました。町の役場から税金のことについて教えてくださいました。その授業では、税金が何に使われているのか、私たちの生活にどのように役に立っているのか、などを教えてくださいました。一本のビデオを見ました。そのビデオは、「もしも日本に税金がなかったらどうなってしまうのか」という内容でした。ある男の人が仕事の給料から税金が引かれて、税金を不満に思い、「税金なんてなければいいのにな」と言って税金のない国になっ

てしまった。税金のない国には、消防車や救急車を呼ぶときも、お金を支払わないと運んでもらえず、火も消してもらえないということでした。そして私は、ある日のことを思い出しました。

数年前、私の祖父が病気で倒れて救急車に運ばれていきました。すごく不安になりましたが、急いで病院に運んでもらうことができました。一命をとりとめることができました。当時は、救急車を呼べば助けに来てくれるということに当たり前のようについていました。今思うと、私たちが税金を支払っていなければ、こんなことになっていたのでしょうか。そう考えると、とても怖い気持ちになりました。

誰しもが生活をしていく上で、一度は利用している病院も税金が無ければ大金がかかってしまっただけで、診てもらえないかもしれません。私たちが使っている公共施設も自由に利用することもできなくなってしまうかもしれません。そう考えると、税金を支払うということは、とても大切なことが分かります。私たちが今、生活しやすくなっ

ているのも税金を支払っているからだと、これが分かりました。私はこの授業を受けるまで、「税金を支払うことは必要ないのではないか」と考えていたけれど、そうではありませんでした。私たちは、自分たちの充実した生活を送るためにも、税金を支払うということは大切だと分かったからです。

これから先、みんなが平等に幸せに暮らすためにも、多くの人に税金の大切さについて知ってもらいたいです。そうすれば、税金を支払うということも、当たり前だと思えることができるでしょう。